

## 津山市を中心とする吉井川流域の魚族

大 島 正 満\*

岡山平野をうるおす三大河川の一つである吉井川は赤磐郡吉井町に於て、東の方鳥取県境の志戸坂峠に源を発する吉野川と、等しく中国山脈に源を発して津山市を貫流する奥津川とを併せ、一路南下西大寺市に於て瀬戸内海に注ぐ長流であるその昔鉄路の便が開けなかった頃には、水量豊富であったこの水路が山又山の作州より岡山方面に出づる唯一の道筋であったという。作州津山は恩師箕作佳吉先生の郷里であり、その縁者であった石川千代松先生及び坪井正五郎先生などからも親しく教をうけた関係上、天然記念物として著明になっているハンザキを始めとし、作州の自然物に関しては耳にするところ多く、一度は箕作先生が呱呱の声を挙げたその地を訪ねて大動物学者をはぐくみ育てた山川の美に接して見たいものと考えていた。筆者は最近本邦各地の溪流魚特に岩魚の分布を研究の目標としている結果、未だ何人も手を染めていない岡山県東部の河川即ち森為三博士が *Salvelinus pluvius* 即ちイワナの棲息を確めて太平洋方面に於けるイワナ分布の西限であると報告をされた兵庫県千種川に隣接する吉井川の支流吉野川の踏査を志ざし、作州の博物学者を統率しておられる津山市在住の本沢一江氏の一方ならぬ御尽力により、英田郡東粟倉中学校の教頭であった豊福林氏（現勝田町東谷小学校々長）や西粟倉小学校々長本位田隣太氏並びに苫田郡久泉中学校々長井上立氏等の助力を得、昭和32年11月九州方面へ旅行の帰途僅々4日を割いて待望の作州に入り吉井川上流の魚族を調査する機会を得た。本報文は限られた期間に入手することを得た淡水魚23種の目録であるが今日まで詳細な記載が発表されていない珍しい種類に就てはその形態を叙述して後学の士のために備うることにした。研究の目標物である岩魚に関しては今回は単に予報的記事を掲ぐるに留め、その詳細は更に稿を改めて記述することとする。本沢一江氏、豊福林氏、井上立氏本位田隣太氏その他採集に協力された地元の各位に厚い感謝の意を表する。

### サケ科 Salmonidae

#### サケ属 *Oncorhynchus* SUCKLEY

#### 1. *Oncorhynchus rhodurus* JORDAN & MCGREGOR

アマゴ、アメゴ、ヒラベ、ヒラメ

採捕地 奥津川（奥津峡）吉野川（英田郡東粟倉村及び西粟倉村）

#### イワナ属 *Salvelinus* RICHARDSON

#### 2. *Salvelinus imbrius* JORDAN & MCGREGOR

タンブリ（鳥取、但馬、美作）、ゴギ（広島県三段峡即ち太田川上流水域並びに三次盆地即ち江川上流特に西城川流域油木方面）

採捕地 吉野川最上流鳥取県境志戸坂峠南麓方面にて多獲

英田郡西粟田村地先吉野川水源附近で採捕したもの5尾を検定せる結果は下記の通りであった。雌魚4尾雄魚1尾で孰れも産卵期間近のもので、雌魚の中には正に排卵せんとする熟卵を包蔵せるものもあった。

\*東京都目黒区中根町180

標 本 測 定 表

体長	頭長	体高	吻長	眼間距離	眼径	上顎	尾柄高	背鰭	胸鰭	腹鰭	臀鰭	鰓耙	鱗列	鰓蓋条	性別	備考
mm 203	3.73	5.56	3.75	3.45	5.00	1.80	2.80	3.9	1.12	1.8	3.9	5+7	25-162-32	12	♀	卵未熟
200	3.68	5.20	3.43	3.43	4.80	1.79	2.66	3.9	1.12	1.8	3.8	5+7	27-131-32	10	♀	同上
188	3.70	5.36	3.72	3.40	4.55	1.70	2.72	3.10	1.12	1.8	3.8	4+6	27-145-32	12	♀	卵半熟
203	4.04	4.35	3.22	3.50	5.25	1.82	2.63	3.10	1.12	1.8	3.8	5+7	30-135-34	12	♀	熟卵アリ
212	3.20	4.20	3.50	3.50	5.60	1.64	2.95	3.10	1.12	1.8	3.8	5+6	27-140-35	12	♂	精巢半熟

上記雌雄共形態は関東方面利根川流域を主産地となし庄内平野を北流して最上川に合流する赤川以下北陸山陰一帯の河川上流に棲息するイワナと選ぶところがないが、体側には橙黄色の少々大きな斑点があり、産卵期のウグイの腹面が赤色を帯びてアカハラと呼ばれる状態になるように、生殖腺成熟の程度に順応してその腹部は一様に橙黄色を呈するようになる。広島県下太田川や江川の上流に棲息するものはすべて同様な大きな橙黄色の斑点が常時腹側を飾っているが腹面の橙黄色は著しくない。これ等すべては JORDAN & MCGREGOR が島根県浜田附近で入手した *S. imbricus* に同定すべきものでエゾイワナに近いが側線の鱗数が著しく少ないのと橙黄色の斑点が体側に常時存在する点が異なる。

### ナマヅ科 Siluridae

#### ナマヅ属 *Parasilurus* BLEEKER

#### 3. *Parasilurus asotus* (LINNAEUS)

ナ マ ツ

採捕地 奥津峡

本種は青森県以南の本州並びに四国九州各地の河川湖沼に広く分布するもので、朝鮮、満洲、中国、台湾等にも極めて普通である。

### ギギ科 Bagridae

#### ハゲギギ属 *Pelteobagrus* BLEEKER

#### 4. *Pelteobagrus nudiceps* (SAUVAGE)

ハゲギギ、ギバチ

採捕地 英田郡東栗倉村及び西栗倉村

本種は南日本の河川湖沼に棲息するもので、信州からも記録されている。

#### アカザ属 *Liobagrus* HILGENDORF

#### 5. *Liobagrus reini* HILGENDORF

ア カ ザ

青森県を除く本州各地及び四国、九州、朝鮮等の河川湖沼に棲息する。

### コイ科 Cyprinidae

#### タナゴ属 *Acheilognathus* BLEEKER

#### 6. *Acheilognathus lanceolatus* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

ヤリタナゴ

採捕地 苫田郡鏡野町下原の用水溝

本種は青森県以南の本邦各地の淡水域に最も広く分布するもので、カラスガイ等の二枚介の外殻腔内に長い産卵管を挿入して産卵し、腔内で稚魚が孵化発生する。

### 7. *Acheilognathus rhombeus* TEMMINCK & SCHLEGEL

クロタナゴ (岡山県)、カネヒラ (滋賀県)、アブラセンバラ (岐阜県)、ヒラタナゴ、タイジャコ等

採捕地 苫田郡鏡野町下原の用水溝

本種は本州中部以西に分布するもので、琵琶湖淀川水系等を始めとし、北九州及び熊本方面などの河川に多産し、佃煮、飴煮などの材料として喜ばれる。

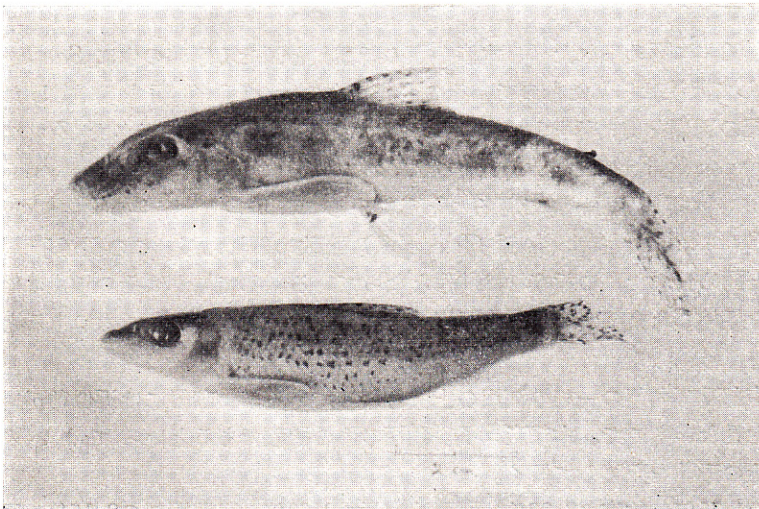
ウキガモ属 *Belligobio* JORDAN & HUBBS

### 8. *Belligobio cristigma* JORDAN & HUBBS

ウキガモ、ウキカマツカ、ウカンボ (岡山県勝田郡梶並方面の名称)。

採捕地 英田郡東倉村 (吉野川)

本種は1925年 JORDAN 及び HUBBS により、1922年に JORDAN 博士夫妻が最後の日本訪問を試みられた際各地で採集された様々な魚類の中から発見された新種の一つとして発表されたもので、京都府下の由良川、広島県三次盆地の水を集めて日本海に注ぐ江ノ川の上流並びに岡山県の吉井川、北九州の筑後川等がその産地として世に知られている上に、朝鮮も亦その分布区域内にあるといわれている。孰れにしても本邦産コイ科魚類の中で珍奇なものの一つであるが、豊福林氏が送附された吉野川魚類標本の中に2個体を発見したのみならず、吉野川に合流する勝田郡方面の梶並川にはウカンボは珍らしくないと豊福氏の書信に記るしてあった。して見れば吉井川の上流方面が本種の分布の中心地であるやも測られず、ウキガモ即ちウカンボを入手したい人々はこの方面に踏み込んだら宜しかろうと思う。容易に実物を入手し難い稀種であるから、参考のため筆者が検討することを得た吉野川産のものゝ形態を記述して置こう。



ウキガモ, *Belligobio cristigma*. (吉野川産)

尾鰭を除ける体長は頭長の3.45倍、体高の4.22倍。頭長は吻長の2.45倍、眼間距離の3.36倍、眼径の4.50倍、尾柄高の3倍、胸鰭長の1.68倍、腹鰭長の1.80倍。背鰭3.7軟条、胸鰭14軟条、腹鰭8軟条、臀鰭2.7軟条。体鱗数5-40-6。咽頭歯4.2-2.4、外列歯は先端鉤状をなして大きく、内側歯は微小である。

体は延長形で側扁し、頭部円錐形で吻端尖る。頭頂扁平で吻端に近づくに従い

僅に膨らみ、鼻孔前に於て少しく凹入する。喉部平たく、尾柄部は細くて側扁する。口裂吻の前縁にありて少々斜である。上唇幅狭く、上顎後端は前鼻孔の前縁下に到達しない。下顎は上顎より短かくその前縁は薄くて尖鋭である。口辺に一对の短かい上顎鬚を具える。前後両鼻孔密接し、眼前上位にある。眼は普通大で頭部の中央上部に位置し、その後下部を顕著な粘液腔がとりまく。第一鰓弓の鰓耙は0+7で極めて微小である。

体鱗円鱗で極めて薄く覆瓦状をなす。側線は少々下方に垂れるが尾部に於てはその中軸に沿うて

縦走する。胸鰭に副鱗片がない。腹鰭の副鱗片は狭長で先端尖る。

背鰭起点は尾鰭基部よりも吻端に近い。背鰭は比較的短かく、後方に向うに従い軟条の長さが短縮する。これを倒してもその先端は臀鰭起点に到達しない。胸鰭の先端は腹鰭との距離の中点を越える。腹鰭起点は背鰭基底の中点下にある。臀鰭起点は背鰭基底末端の遙に後方にある。肛門は臀鰭起点の直前にある、尾鰭後縁は分叉し上下両葉の先端は鋭く尖る。

フォルマリン漬の標本に於ては体の背部淡灰色で腹面に近づくに従い色淡く、側線上方の体側には微小な暗褐色点が線状をなして並列する。背鰭及び尾鰭には多数の微小な暗褐色点が散在するが他の鱗はすべて無色である。

体の全長115mm.

他のは全長142mm.

#### カマツカ属 *Pseudogobio* BLEEKER

#### 9. *Pseudogobio esocinus* (TFMMINCK & SCHLEGEL)

カマツカ、カワキス、スナムグリ (長野県)、スナセセリ (兵庫県)、スナホリ (広島県)。

採捕地 吉野川 (東栗倉)

本種は分布区域極めて広く、青森県を除く本州各地、四国、九州及び朝鮮の淡水域に棲息する。5~7月の頃河川の砂底に産卵する。

#### ムギツク属 *Pungtungia* HERZENSTEIN

#### 10. *Pungtungia hilgendorfi* (ISHIKAWA)

ムギツク

採捕地 吉野川 (東栗倉)

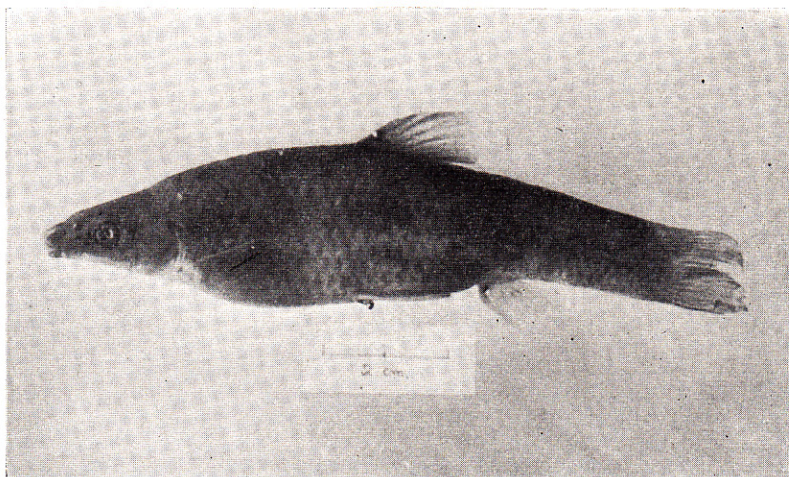
本種は石川千代松博士が1902年に認められた「日本産魚類の新種」と題せる原稿の中に *Sarchocheilichthys hilgendorfi* として記述せられたもので、その翌年日本のコイ科魚類を詳説した JORDAN 及び FOWLER は上記の種類を模式種として新属 *Zezero* を創設し、該種の学名を *Zezero hilgendorfi* (ISHIKAWA) JORDAN & FOWLER と改めた。後に *Zezero* 属は 1892年に HERZENSTEIN によって創設された *Pungtungia* 属と同一属であることが判明して石川千代松博士の *Sarchocheilichthys hilgendorfi* は *Pungtungia hilgendorfi* (ISHIKAWA) と改められたが、この種が石川博士によりて、新種であると認められた際の採集地は美作となっている。して見ればその地点は明らかではないが、今回2尾を採捕した東栗倉方面の吉野川流域は本種の type locality 内にあると考えてよいと思う。

本種の既知の産地は本州南部及び九州の一部の河川の上流となっているが、朝鮮には近似種がいる。本州の東部には全く姿を見ないもので、本邦産コイ科魚類の中の稀種であるといつてよいので、後学の士のために次にその形態を記述して置く。

尾鰭を除いた体長は頭長の4.75倍、体高の3.88倍、頭長は吻長の2.60倍、眼間距離の2.16倍、眼径の5.20倍、胸鰭長の1.30倍、腹鰭長の1.30倍。鱗片6-42-6。咽頭歯5-5。各歯は微小で先端鈎状をなす。第一鰓弓の鰓耙は5+10、鰓蓋径3、体は延長形で側扁し、頭部は比較的小さく前端截断状をなす。その背腹両縁は直線状をなし、背面は平滑である。口は吻の前端にあり、口裂は水平に近い。上唇幅狭く、末端肉質状で膨らみ、口角を包む。下顎は上顎より僅に長く、前縁角質状で尖鋭である。上顎小さく末端は鼻孔下に到達しない。口角部に短い鬚がある。眼は比較的小さく、頭側の中央部に位置する。前後の鼻孔は密接し眼前上方に位置する。眼間部幅広くて平である。鰓裂は顕著でなく、第一鰓弓上の鰓耙は微小である。

体鱗中等大で薄く、円鱗で覆瓦状をなす。胸鱗には副鱗なく腹鱗には小さな副鱗を備える。

背鱗起点は吻端と尾鱗基底との中間にある。比較的短小で、前方の軟条が最も長い、これを後方に倒しても、先端は臀鱗起点に到達しない。胸鱗短かく、先端は腹鱗起点との距離の三分の二の点



ムギツク *Pungtungia hilgendorfi* 吉野川産 (東栗倉)

に達する。腹鱗は背鱗の起点下に着生する。臀鱗は胸鱗末端よりは尾線基底に近く着生する。尾柄部側扁して高さ高く、頭長はその高さの1.53倍。尾鱗は幅広くて短かく外縁は分叉する。

側線は完全でゆるやかな弧状をなし、体側中央部より少しく上方を走る。

ホルマリン漬の標本に於ては体の上半部暗褐色で下方に向うに従い色淡く白色となる。幅の広い暗褐色帯が吻端に起り眼を過ぎ尾鱗基底の中央部に向って体側を縦走する。頭部下面及び咽喉部は白色、臀鱗以外の鱗の軟条は煤色、臀鱗は白色である。

体長140mm.

他の個体の全長は1.30mm.

#### ウグイ属 *Tribolodon* SAUVAGE

#### 11. *Tribolodon hakuensis hakuensis* (GÜNTHER)

ウグイ、マルタ、ハヤ、ホンバヤ (東京)、イダ (四国、九州、中国)、アカハラ (利根川流域)  
採捕地 吉野川 (東栗倉)

本種は本邦各地及び朝鮮の河川湖沼に極めて普通なもので釣漁者の目標となるものである。産卵期になると第二次性徴が現われて腹部が紅色を帯びるのでアカハラと呼ばれる。食用魚として喜ばれる河川魚の一つである。

#### アブラハヤ属 *Moroco* JORDAN & HUBBS

#### 12. *Moroco steindachneri* (SAUVAGE)

アブラハヤ、ドロバエ (岡山県)、アブラムツ、アブラモロコ (滋賀県)、ニガザコ、ニガンベ (栃木県)、ウロバエ (奈良県)。

採捕地 吉野川 (東栗倉、西栗倉)

本種は本邦各地の溪流及び山地の湖沼に極めて普通でその分布区域広汎であるが、筆者が群馬県尾瀬沼で採捕したものの大多数はその腹腔内にリグラ条虫の幼虫を宿していた。これを捕食する水禽類の体内で該条虫は生活環を完了するものと思われる。

#### オイカワ属 *Zacco* JORDAN & EVERMANN

#### 13. *Zacco platypus* (TEMMINCK & SCHLFGEL)

オイカワ、シラハイ (熊本県、奈良県)、ハエ、ハイ (熊本県、滋賀県)、ハヤ、ヤマベ (東京)、アカハラ (群馬県)。

採捕地 吉野川（東粟倉、西粟倉）

本種は北海道及び奥羽地方を除いた本邦各地の河川湖沼に極めて普通なもので、その分布極めて広く台湾、海南島、南支方面にも多産する。雌雄の形態色彩が異なり、特に産卵期に於ては雌魚は一般に銀白色を呈するのでシラハエと呼ばれ、鮮麗な色彩を帯ぶる雄魚とは別種であるかの如く思考されている場合が多い。

14. *Zacco temminckii* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

カワムツ、アカムツ、アカバエ

採捕地 苫田郡境野町下原の用水溝及び吉野川（東粟倉）。

本種は本州中部以南、朝鮮、台湾、南支那、海南島等に広く分布する南方系のもので、本邦に於ては前種に比して少ない。

フナ属 *Carassius* NILSSON

15. *Carassius auratus* (LINNAEUS)

フナ

採捕地 奥津川、吉野川

ドジョウ科 Cobitidae

ドジョウ属 *Misgurnus* LACÉPÈDE

16. *Misgurnus anguillicaudatus* (CANTER)

ドジョウ

採捕地 苫野郡境野町下原の用水溝

ホトケドジョウ属 *Lefua* HERZENSTEIN

17. *Lefua echigonia* JORDAN & RICHARDSON

ホトケドジョウ

採捕地 吉野川（東粟倉）

体長57mm、58mmの2尾を得たが、秋田県以南各地の用水溝などに見らるる小さい鱗で、仏性ありて猫も喰わぬという云い伝えからこの名がある。

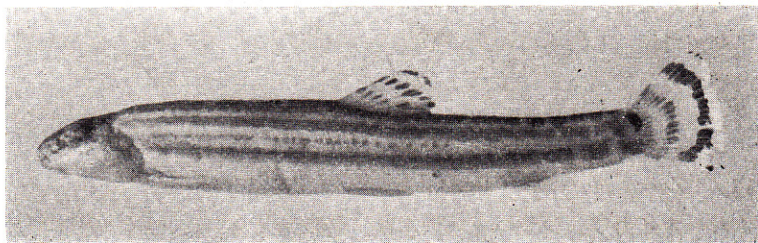
シマドジョウ属 *Cobitis* (Artemi) LINNAEUS

18. *Cobitis taenia striata* IKEDA

スジシマドジョウ

採捕地 奥津峡

一尾を獲たに過ぎないが、体側に顕著な2条の黒帯が走り両者の間に頸部に発する細い黒帯が介在し後方に向うに連れて黒色の微細な点線に変化する。



スジシマドジョウ *Cobitis taenia striata*

## スズキ科 Serranidae.

オヤニラミ属 *Bryttosus* JORDAN & SNYDER19. *Bryttosus Kawamebari* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

オオニラミ、カワメバル

採捕地 吉野川(東粟倉、西粟倉)

本種は南日本の河川の緩流部に棲息する少魚で、桂川は表日本に於ける分布の北限で、裏日本では由良川の綾部附近がその限界であろうといわれているが、筆者は熊本県下の菊池川及び緑川に於てこれを採捕した。朝鮮長興及び晋州からも知られているが、近時観賞魚として珍重され、これが増殖を計っているが、本邦河川魚の稀種で次第に衰滅する倒向がある。

## カジカ科 Cottidae,

カジカ属 *Cottus* (Artedi) LINNAEUS20. *Cottus pollux* GÜNTHER

カジカ

採捕地 吉野川(東粟倉)

本種は北海道及び本州の河川湖沼に極めて普通であるが特に北日本に多い。清冽な水を好むが、山間部落では食膳に供して大に珍重する。

## ハゼ科 Gobiidae.

ドンコ属 *Mogurunda* GILL21. *Mogurunda obscura* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

ドンコ、ドマン、ドンコロ

採捕地 吉野川(西粟倉)

本州中部以南の河川池沼に極めて普通。分布区域広く朝鮮中国を経て馬來群島に及ぶ。

カワアナゴ属 *Eleotris* GRONOW.22. *Eleotris pisonis oxycephala* TEMMINCK & SCHLEGEL

カワアナゴ

採捕地 苫野郡鏡野町下原の用水溝

クモハゼ属 *Gobius* LINNAEUS23. *Gobius simili* GILL

ヨシノボリ、ゴリ

採捕地 苫野郡鏡野町下原の用水溝

分布極めて広く北海道から日本全土、朝鮮、満洲、中国、台湾、比律賓等に及ぶ。

## Résumé

Notes on a small Collection of Freshwater Fishes obtained in the Upper Streams of Yoshii River, Okayama Prefecture.

Masamitsu OSHIMA, M. A.; D. Agr.; D. Sc.

In the present paper is given the record of a small collection of freshwater fishes obtained by the writer in the upper streams of Yoshii River in the vicinity of Tsuyama City, Okayama Prefecture, making a trip in the fall of 1957. It contains 23 species, of which two are very rare Cyprinoid distributed only in the western part of Japan proper, their full descriptions being given consequently. Brook trout abundantly found in the head water of Yoshino River seems to be identical with *Salvelinus imbrius* JORDAN & MCGREGOR obtained from a stream near Hamada Shimane Prefecture in the year 1922 (Mem Carreg, Mus, Vol. X, No. 2. p. 142). Occurrence of *Salvelinus* in Okayama Prefecture has been recorded for the first time western limit of distribution extending thus to the middle of the Sanyo District.